

# 幸福な田舎のつくりかた

地域の誇りが人をつなぎ、  
小さな経済を動かす

かなまる・ひろみ  
金丸弘美さん

「日本の地方は疲弊している、若者がいない、農業が振るわないと言われますが、そんなことはありません。若者が新しいアイデアを出して創造的な活動をしている地域はたくさんあります」

「小さくても地域でまわる経済の仕組みをつくり、地域内外の人たちと活発な交流をして、その土地独自の環境資源を発信できるところは元気です。特産品でも食材でも観光でも、その土地ならではのものが必ずあるのです」

「山形県鶴岡市は文化と食と農業がうまく融合しています。その土地特有の野菜を調査している山形大学の准教授、地域野菜を使って新しい料理を提供する『アル・ケッチャーノ』、伝統野菜を守る農家などをドキュメンタリー映画にした『よみがえりのレシピ』の監督

「母は大皿料理が得意で、私も、おもてなしの心を受け継ぎました。食は重要です。今の日本は何を食べさせられているのか、わからない状況。食をこんなひどくしたのはダレだと問いたいですね」

「特産品をアピールするにはテキスト化が大事。食材ならどこで作

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」

「母は科学教育にもなります」



学芸出版社 1,890円



町おこしのコツは地域の独自性を知ることから始まる。

撮影・高野長英